

落合かつひろ これまでの主な取り組み



No. 18

平成23年〈2011年〉4月～令和5年〈2023年〉2月

堅実な行政手腕、新たな課題への挑戦

◆健全な財政運営を堅持

- ・財政調整基金残高（市の貯金）は、約24億円の増加。
平成22年度末 約53億円 → 令和3年度末 約77億円
※新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和2年度に10億円を取り崩したものの、令和3年度に積み戻しました。
- ・市債残高（市の借金）は、約80億円の削減。
平成22年度末 約1,125億円 → 令和3年度末 約1,046億円

◆戦略的な市役所の組織づくり、新型コロナへの対応

- ・市長の指示をより迅速かつ的確に行政運営につなげるため、令和元年10月に「市長室」を新設。新型コロナウイルス感染症への機動的な対応などに効果を発揮しています。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応では、令和2年2月から市民病院で患者（令和4年12月までに入院723人）を受け入れるとともに、令和2年3月には、いち早く災害用の備蓄マスクを配布しました。また、ワクチン接種体制の整備や抗原検査キットの配布のほか、緊急対策（2回で12.5億円）と総合対策（5回で93.4億円）により、市独自に子育て世代へ給付金を支給するとともに、自治会や企業等の活動を支援しました。
- ・ワクチン接種、特別定額給付金への対応では、令和2年4月に「臨時給付金担当」を設置し、最大32人を配置するとともに、令和3年1月には「新型コロナワクチン接種担当」を設置し、最大22人を配置しました。

市民の皆さんの安心・安全を第一に考え、取り組んできた成果を2月まで、毎週火曜日に紹介していきます。

発行：令和5年2月14日